



第128回公開講演会「よみがえる西大寺金堂院」の開催

2023年6月10日、平城宮跡資料館講堂にて第128回公開講演会「よみがえる西大寺金堂院」を開催しました。この講演会は、都城発掘調査部創設60周年を記念したもので218名が参加しました。今回は西大寺金堂院をテーマに、3名の研究員が講演しました。

西大寺は称徳天皇によって創建された勅願寺で、奈良時代後半には東大寺と並ぶ規模を誇りました。しかし、現存する伽藍堂舎は中世～近世に再建されたものがほとんどで、創建当初の姿を伝えるものは、四王堂の基壇や東塔跡の基壇などを残すのみとなっています。いっぽう、都市化が進む旧境内地では、薬師・弥勒の両金堂とそれを囲む回廊、食堂院、小塔院、十一面堂院など奈良時代の西大寺の遺跡が今も残ることが、発掘調査であきらかになりました。特に奈良時代の西大寺の中心である金堂院地区は21世紀に入ってから発掘調査によって、少しずつその様相があきらかになりつつあります。



講演会のポスター

林正憲室長による「四王堂・薬師金堂の発掘調査」では、四王堂(1986・2002年)、薬師金堂(2006・2007年)、食堂院(2006年)の発掘調査から復元される建物について紹介しました。田中龍一研究員による「弥勒金堂の発掘調査」では、2023年3月に初めて実施した弥勒金堂の発掘調査成果を紹介しました。調査区は弥勒金堂の東北隅部分にあたり、建物基壇をはじめ、礎石抜取穴、壺地業といった遺構を検出し、造営時における大規模工事の実態があきらかとなりました(『奈文研ニュース』第89号)。鈴木智大室長による「西大寺金堂院の復元」では、『西大寺資財流記帳』に記述された金堂院の規模や特徴について、これまでの発掘調査成果をもとに検討した西大寺金堂院の復元研究の成果を紹介しました。

近年、近鉄大和西大寺駅周辺の再開発が進みつつあり、旧境内地の遺跡を後世に伝えていくため、地元住民をはじめ、多くの方々に広く遺跡の存在を知っていただくことが求められます。平城宮跡資料館の春期ミニ展示「よみがえる西大寺金堂院」ではこれまでの金堂院地区の発掘調査成果を紹介しました。奈良文化財研究所では今後も、講演会のほか、展覧会や動画などを通じて、地下に眠る西大寺の遺跡の周知に取り組みます。

(都城発掘調査部 丹羽 崇史)



講演会のようす